makimaki hanamaki

まきまき花巻

市民ライターが岩手県花巻市の魅力を発信!

まきまき花巻が生まれるまで

「花巻のいいところって沢山あるけど、それをみんなで発信できる場って無いよね」。どんな人にむけて？どんな方法で？どんな人が発信する？まちの魅力を知っているひとたちが集まって、沢山意見交換をしながら考えました。そうして産声をあげたのが、花巻市の情報発信ウェブサイト「まきまき花巻」。

平成29年の春からサイトの公開がスタートし、市民が自らまちの魅力を見つけ出して取材を始めました。文章を書いたり、写真を撮ったり、ましてや取材なんてやったこともない。そんな人も多い中でしたが、花巻のいいところは「記事を書くことを仕事にしている人」だけが知っているわけではありません。また、「花巻市に住んでいる人」だけでもありません。

まきまき花巻のライターとして大事なのは、「花巻が好きなこと」。一番大事なことです。

花巻市の中からの視点、外からの視点、様々な年代の視点、色々な人たちの「花巻じまん」を伝えていきたいと思っています。

「まきまき花巻」の由来は、花巻市とつながる人を増やしていきたい、という想いから、「人を巻き込んでいく」という意味を込めて「まきまき（巻き巻き）」と名付けました。

もくじ

02 まきまき花巻が生まれるまで
04 市民ライターが花巻市の魅力を発信
05 グッドデザイン賞受賞／ライター養成講座
06 どんな人が書いてるの？
07 どんな記事が載ってるの？
08 離れていても心の住所は東和町
10 まきまき花巻 ダン爺ライターの語らい
12 学生ライターが語る「花巻ってどんなところ？」
15 旅する市民ライター
16 ママさんライターの花巻語り部屋
17 工芸の作り手と読み手を結ぶ
18 市民ライター　花巻のおすすめ
19 編集後記

市民ライターが花巻市の魅力を発信

「まきまき花巻」は、岩手県花巻市にお住まいの方、花巻市出身の方、花巻市が好きな方などの市民ライターたちが見つけた、花巻市の魅力や取り組みを伝える情報発信サイトです。

花巻のことをよく知っている市民ライターだからこそ見つけた、花巻の人・食・モノ・場・イベント・プロジェクトなどの情報を、市民ライターが自ら取材し、お届けします。

「まきまき花巻」をご覧になって、「花巻市っていいな」「おもしろそうだな」と感じてくださったら、ぜひ足を運んでみてください。そして、花巻の「人」と触れ合ってみてください。

きっと新しいつながりが生まれるはずです。

まきまき花巻
ホームページ

グッドデザイン賞受賞

まきまき花巻は、2019年グッドデザイン賞を受賞しました。審査員からは「**何かの専門性がある人だけでつくるのではなく、一般の人を市民ライターとして迎え入れ、発信していく仕組みが魅力的である。“花巻に魅力を感じている人たち” という共通項に集う人々により、発信の場が日に日に膨らんでいて、企画の独自性が光っている。**」という評価をいただいています。

ライター養成講座

講師を招いての勉強会を年間3~4回開催しています。最近ではオンラインでの開催が多いため、遠方の市民ライターも気軽に参加できるようになりました。内容は、記事のネタの見つけ方、アポイントの取り方、取材の仕方や記事の書き方の勉強などを行います。

大切なのは記事の出来ではなく、市民ライターが花巻のいいところを自分で見つけて記事を作り上げる過程や、地域の人とのつながりが生まれるところです。

どんな人が書いてるの？

まきまき花巻市民ライター

まきまき花巻では、花巻の魅力を発信する市民ライターを募集しています。「まきまき花巻」の想いに共感いただける方であれば、花巻市との関係性や執筆経験は問いません。「花巻市が好きだ」「花巻市の魅力を発信したい」という方、ぜひ市民ライターとして活動してみませんか？

市民ライターになりたい方は、まきまき花巻ホームページより、必要な情報をお送りください。

市民ライター
申請フォーム

どんな記事が載ってるの？

さすらいの旅人
ブランチさん執筆記事

兵庫県出身の市民ライターが、花巻の面白さを県外の方の新鮮な視点で紹介しています。

花巻市大迫町の岳集落にある、豊かな自然に囲まれたカフェをご紹介します。ユニークなラジオ配信もご注目！

塩野さん
執筆記事

高橋さん
執筆記事

花巻に遊びに来た友人に楽しんでもらうプランを考え、実際に案内してみました！こんなプランならワクワクしますね。

離れていても心の住所は東和町

2年前、まっちーさんが岩手県に出向した時にお世話になった東和町のみなさま

東京在住の市民ライター「まっちー」さん

オンラインで東京と東和町をお繋ぎしました

●…まっちーさん　○…東和町のみなさま

●お久しぶりです！ こんなふうにお顔を見て話せてとても嬉しいです。東和の棚田が懐かしい～！ 今年の「棚田のんびりRun」(東和の棚田風景を見ながら走るマラソンイベント)のことも聞きたいです。

○役重さん(以下／役)　今年は、9月19日(日)に開催することで進んでいるんだけど、県内のコロナの感染状況もあって、現地マラソンイベントは中止で、主催者が棚田の風景やコースの紹介をするオンライン配信のみになったよ。

　オンラインは20人まで参加できて、参加者へ記念品も差し上げる方向で進んでます。まっちー、オンラインで参加してよ～。

●もちろん！ 申し込みます。

○髙橋さん(以下／髙)　話が変わるけど、わたし道の駅「とうわ」で、毎週土日限定11時から16時までホットとアイスの珈琲も出してます。

●すごい！「みそソフト」と「髙橋さんの珈琲」どっちも味わえるんですね。

○小田さん(以下／小)　そうそう。うち(小田農園)の米も売ってるよ～。

●来年は東和町に手伝いに行きたい。

○菅野さん(以下／菅)　そういえば藤井さんのところは、お家をリフォームしたんだよね。「自分の居場所」を作ったらしいよ。

○藤井さん(以下／藤)　元の牛舎を改造して、自分の書斎を作ったんだ。薪ストーブもあるよ。

●それ、すごいですね！いいなぁ。

○藤　うん、自分でやった。

●え？ 自分でってさらにすごいですね。どれぐらい時間かかったんですか？

○藤　一昨年の春から始めたよ。1年くらいでなんとか形にはなったかな。

●牛舎を書斎にっていうのも東和ならではだし、薪ストーブっていうのも東京じゃできないからうらやましい。でも冬は寒いですよね。

○菅　町田さん寒がりだからね。髙橋さんも今年の3月に宿、始めたよね。

○髙　「やなのうえプロジェクト」ね。今はだいぶ色々使えるようになりました。蔵を多目的ホールにしたりとか、珈琲を提供したりとか。春から宿泊もできるようになったけど、このご時世だからね。

●私が2年前に岩手に出向したばかりのころは、全然知り合いもいないし、すっごい寂しかったんです。東和町にいる役重さんに会いに行った時に、「最後には岩手から離れたくない！ ってなるよ～」って言われてたんですよ。そんなことあるかな～？ って思ってたんです。でも、何度も足を運ぶうちに、見たこともない山菜で作るピザを一緒に食べて楽しかったり、棚田の風景がすごくきれいだなって感じるようになったりして。あ～、これは確かに離れたくなくなる、と思いました。交流をするなかで「あなたはもう東和町民でしょ？」と言われて嬉しかったです。

○役　そう！ それが魔の手なのよ。まんまとハマっちゃったでしょ。私と同じ。

●わかりました！ 私、東和に行く前までは岩手のことを心から受け入れられてなかったんです。東和がそのきっかけを作ってくれた場所でした。

◀まきまき花巻掲載記事
「おかわりちょうだい、
東和のお米」

まっちーさんの
執筆記事一覧

○菅　「まきまき花巻」に載った記事を、当時県庁でまっちーと一緒だった方が読んでいて、感想を人づてに聞いたことがあったんです。その人がね、「一緒に働いていた時は分からなかったけど、こんな風にものを見たり感じたりする子だったんだ」っておっしゃっていたそうですよ。

●当時お世話になった方々には、とても感謝しています。普段は自分の気持ちを素直に言ったりできないんですけど、「まきまき花巻」にライターとして記事を書くことで、想いを伝えることができていました。

○役　「まきまき花巻」って、そういう効果あるよね。

●東和の方には本当にお世話になったから、恩返しの意味も込めて発信できればと思って始めたっていうのもあります。あと、「まきまき花巻」のライターでいたからこそ、オンラインっていう新しい形で東和の方と繋がる機会に恵まれてすごく嬉しいです。

○髙　またやりましょう！「やなのうえプロジェクト」も協力します。

まきまき花巻
ダン爺ライターの語らい

村上さん
（神奈川県相模原市在住）

四戸さん
（花巻市在住）

北山さん
（花巻市在住）

千葉さん
（岩手県盛岡市在住）

花巻の1番の魅力

●北山さん（以下／北）　いち推しは「人」でしょ。美味しいものとか、きれいな景色はどこにでもあるけど、ここにしかないものは人だと思う。花巻のことを全然知らない人でも、この人に会いたいと思えば来てくれるよね。

●村上さん（以下／村）　7月まで一般公開していた、花巻の「菊池捍邸」にも北山さんはかかわっていましたよね。

●北　はい。実はあの建物、外見は洋館なんですけど中身は武家屋敷なんです。大正15年にできた当時のまま残ってます。歴史的にも価値がありますし、菊池捍さんという人物を花巻の先人として再顕彰するという目的もあります。

●村　今回は期間限定での公開みたいですが、今後の計画とかはあるんですか？

●北　今後の検討になりますが、目標は常設展示ですね。まちなかミュージアムみたいにすることも検討しています。

●村　今回は「菊池捍邸」の公開に間に合うように花巻には行けませんでしたが、今後も見られるようになることを楽しみにしています。

●千葉さん（以下／千）　北山さんが言ったように、花巻の魅力は「人」だと思います。

「菊池捍邸」もそうですが、まちの成り立ちがあって今があるんですよね。

私が行った時は、お昼を食べに「旧橋本家の別邸」に行きました。旧橋本家の別邸は、現在カフェ「茶寮かだん」になっていて、庭にある花壇は、宮沢賢治が設計したものが残されています。

上町の「マルカンビル」、御田屋町の「菊池捍邸」、花城町の「旧橋本家別邸」と、歩いて回れる範囲で楽しめるポイントが沢山あります。花巻は、まちを歩いてみるだけで100年前の暮らしを感じることができるような建物が残っている、そこがいいと思います。

昭和ノスタルジーな街

●北　昭和なまちっていいですよね。「マルカンビル」「旧橋本家別邸」も昭和に建てられましたし。駅から菊池捍邸の間でも、昭和なお店や建物がありますよね。

●千　大通りの「賢治最中本舗」も、昭和30年の創業らしいです。お店の中でお茶っこしている人もたまにいたりして、店の中から外の道ゆく人を見たりできて、いい雰囲気なんです。

そういえば、花巻って古い看板もおもしろいですよね。住んでるひとには当たり前なのかもしれないけど、初めてのひとには面白く見えたりする。

●北　そうですね。あと、花巻南温泉峡の方に「昭和の学校」っていう展示施設があるじゃないですか。そこにあるものを使って、商店街を活性化できないかと、あるところから相談を受けてまして。要は、空き店舗に展示して見てもらおうみたいな。店はやってないけどあたかも「たばこ屋」さんとか「レコード屋」さんがあるみたいに、まちを作っていったら面白いんじゃないかという。それをあちこちに声をかけてはいるんだけれど、なかなか実現には至ってないですね。

●千　昭和ノスタルジーって、今の若い子も興味をもってますよね。そして昭和は60年以上続きましたから、団塊の世代の方々は喜ぶと思うんですよね。

●北　そういえば「風人堂」が入っている、末広町の「ゲストハウスmeinn」も100年経ってますね。外見は新しいけど、中は古い建物ってけっこうあるので、そういうところを巡るまち歩きもいいかもしれません。

●四戸さん（以下／四）　昔は、末広町や鍛治町のあたりも、映画館があったりして賑わっていたらしいですね。

●北　おいしい天ぷらが有名なお店や、小料理屋なんかが今もありますよ。昔は旦那衆が秘密の会合やったりね（笑）。

●四　いいですね、そういうの大好きです。

●千　あ！　北山さんに聞きたいんだけど、路地でおもしろいところありますよね。

●北　ありますね。花巻は面白い路地が残っています。

●千　夕暮れどきに、村上さんがふらっと歩きそうな（笑）。

●四　地元の人しか知らないような雰囲気をかもしだしているところ、ありますよね。

●村　今まで花巻のまち歩きをしたことありますけど、路地は行ったことなかったな。素敵なところなんだろうな～！

坂の多いまち花巻

●四　村上さんはまち歩きをして気がついたと思うけど、花巻って坂が多いでしょ。

●村　そうそう！ 市役所から「マルカンビル」までの高低差とが、すごいですよね。

「鳥谷ヶ崎公園」から「イトーヨーカドー」が見えるところに入っていくと、早池峰山がきれいに見えて、びっくりしました。

●四　そう、意外と知られていない丁度いいスポットなんです。

●北　愛宕町とか一日市のあたりなんですけど、昔は河岸段丘に沿って北上川が蛇行していたんです。だから削られてああいう崖になってる。花巻の町って一番最初は四日町なんですよ。お城の南側じゃなくて北側。伊達藩に備えてのお城なので、四日町はお城の後ろ側に守られていたんです。この間、花巻シニア大学のまち散歩の案内人をやりましてね、ちょうど一日市と四日町の歴史を案内してきました。

●村　北山さんは花巻の生き字引ですね。

北山さん
執筆記事

千葉さん
執筆記事

村上さん
執筆記事

四戸さん
執筆記事

学生ライターが語る「花巻ってどんなところ？」

まきまき花巻は、市内・市外で
高校生、大学生の学生ライターが
十数人活躍しています。
花巻在住の２名と、
花巻出身で県外在住の２名に
花巻の印象について質問してみました。

●花巻ってどんなところ？

○高校の頃は「盛岡は都会だから」って言われると「花巻だって宮沢賢治の故郷だし、マルカンビルがあるし、温泉あるし舐めんなよ」って謎の対抗意識がありました。その割に「岩手（花巻）何もないよね～」な口癖。なんだかんだ地元好きなツンデレ若者が多いんです。

○地域の方々があたたかい！ 交通指導員さんをはじめ、小中高と挨拶とともにある通学で、朝から気分が上がります。子ども会や清掃活動など、小さいうちからご近所さんとの交流があり、結びつきを感じられ、大切にされている感じがして有難いです。

○自然豊かで、小学校で農業体験をした人も少なくないと思います。学校近くに田んぼをお借りしていました。育てたお米は給食でいただきますっ。懐かしい。

○伝統芸能が色々あり、神楽や太鼓、鹿踊など。かっこいいですよね。

○中学・高校の修学旅行で東京とか大阪とか行ってみて、人も車もわちゃわちゃしてるし、みんなせかせかしているように感じました。それに比べたら「花巻は自然の中でゆっくり時間が流れてる、そんな生活のほうがよっぽどいいな」と思いました。でっかいショッピングセンターはないけれど、生活に困らないくらいのお店もあるし、食べ物全部うまいし。都会っ子だったら私痩せてたかも？（肥えたことを花巻のせいにしたい…）

●花巻での暮らしってどんなところがいい？

○不在時に玄関に献上される、新聞紙に包まれた自家製野菜たち。若者は溺愛されるし、お年寄りはみんなで救済する！ 人の温かみがすごいです。

○子どもが少ないので、私は保育園から小学校まで1クラスでした。中学校までエスカレーターなので深い関係の幼なじみができます。今でも保育園時代からの幼なじみとは仲がいいし、この経験から、もし自分に子どもができたら、花巻のような幼なじみがたくさんできる環境で、子育てしたいと思うようになりました。

○花巻の春夏秋冬。春、畑の草のにおい（ちょっと青臭い感じ）、オオイヌノフグリが咲き始めた時、山菜採り（ばっけ、コシアブラ、ウド、フキ、うるいなど）、りんごの薬かけの機械の音。夏、カエルの合唱、おばあちゃんが玄関先に打ち水をしている時、セミの鳴き声。秋、りんごやお米の収穫風景、朝と夜が少し肌寒く感じる時、家のりんご小屋が沢山のりんごで溢れている時。冬、朝のキンキンの空気、りんごの木が剪定されている風景、おばあちゃん家の豆炭こたつの独特な匂い。

○中学生くらいの時に、友達としゃべるより、おじいちゃん、おばあちゃんとしゃべるほうが好きかもしれないことに気づきました。

理由①楽しいから！

人生経験豊富、という言葉でおさめていいのか…本当にいろんな経験をしていて、その話を聞くのがめちゃくちゃおもしろいです。高校時代に、土沢駅で電車を待っていたら、偶然居合わせたおばあちゃんに「土沢商店街の○○っていうお店行きたいんだけど…」と聞かれたのでそこまで案内したら、お茶とお饅頭をご馳走してくれて、ずっと持ち歩いているという白黒写真を見せてくれて、人生談を話してもらったことがありました。

理由②楽だから！

自分が結構なまっているからかもしれないけど、家にいるとき以外は知らないうちに「標準語をしゃべろう」という意識が働いて、勝手に疲れています。でも、おじいちゃん、おばあちゃんと話すときは、じぶんもなまりになまって話せる。自然になれているし、なまっても話が通じるってすごく楽です。

自分でも使う言葉とかイントネーションとか、気をつけているつもりだけどそれでも友達には「めっちゃなまってる」といわれます。それが嫌だとは思っていません。なまりが分かると、おじいちゃん、おばあちゃんの面白い会話内容が全部聞き取れます。

●花巻の美味しいものを教えてください

○もちろん「マルカンビル大食堂」のマルカンソフト！ 割り箸で。最近はカフェが流行りですね。インスタで#花巻カフェ！

○産直や直売所が沢山あって、地元の野菜や特産物に沢山触れ合うことができます。実家がりんご農家なので、小さい頃から食べすぎて嫌いになりかけましたが、県外でひとり暮らしを始めてから、おばあちゃんにりんごを送ってもらったとき、食べたりんごの味に感動しました。やっぱりおいしい！

●宮沢賢治はどんな印象？

○宮沢賢治のことを「賢治さん」「賢治」っておじいちゃん、おばあちゃんが呼ぶので、すごく身近な人のような気持ちです。

○新花巻駅の近くは「宮沢賢治記念館」「宮沢賢治童話村」があって好きです。「白鳥の停車場」というおしゃれな雑貨屋さんがあって、特に「銀河鉄道の夜」が好きな人にはたまらないです。

●お友達とどんなことを話しますか？

○何だかんだみんな花巻が好きです。やはり落ち着くんですよね。都会に出たいと憧れる人も一定数いますが、地元に残る人も少なからずいます。また、「都会は遊びに行くくらいが丁度いい、定住は疲れる」という人が多いです(私も！)。

○カフェやラーメン屋さんなど、飲食関係が熱いです。Instagramで飯テロもどきが行われていたり。友達と行くご飯は倍美味しい。お店の情報をシェアし合ったりするのが楽しいです！ 花巻駅からのアクセスが比較的いい場所に、学生や家族連れが好きそうなお店があって便利かなと思います。図書館や勉強スペースを利用したいと思っている人は多いです。コロナの影響もあり利用はまだ難しいのかなと思っています。駅でSuicaの利用がしたい、釜石線の本数を増やしてほしい、明るく賑わった商店街がみたい！ 他にもいろいろ…。

●これからやってみたいことを教えてください

○全く花巻を知らない友達の観光ガイドをしたいです～。実際にやってみて面白いと思いました。

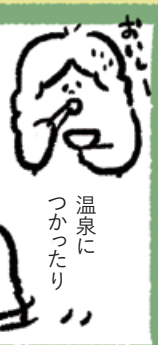
あと、まきまき花巻で、学生と大人の方が一対一で花巻について語り合うこと。世代間の共有とかできていいんじゃない～？って思ってます。全体だと、話すタイミングとか難しいと思います。私は何度かオンラインで参加させてもらっていますが、話を振ってもらえないと話せないので、マンツーマンだといいかなと。自ずと喋らざるを得ないというかなんというか。それに表面上のお付き合い感があるので個々の繋がりがもっと深まれば、記事とか色々と活動が広がるのかな、と最近は思ってます。

旅する市民ライター

兵庫県在住の中野さん

私には旅すると入る「花巻スイッチ」があります。

それは、花巻を満喫するスイッチ！



温泉につかったり

美味しいものを食べたり

なんといっても、花巻は宮沢賢治さんの故郷！

まちの人が、宮沢賢治を「賢治さん」っていうところ好き。「ああ、賢治さんはこのまちの人なんだなぁ」と思います。

毎日、朝に「精神歌」夜に「星めぐりの歌」で*時報が流れます。

野菜、お米、果物、乳製品、お肉、ワイン、お酒。おいしいものを造っている人と風景があります。

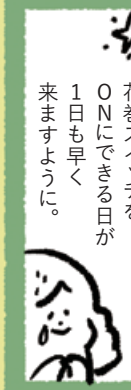
賢治作品の舞台やゆかりの場所があり、そこで佇める。花巻の光や風と一緒に、作品世界に近づいていけます。

自身が体験したこと、花巻にある大好きなものを記事にしています。

中野さん執筆記事

花巻を旅するようになって20年以上が経ちました。今では、友人知人と「再会」できる場所になり、一緒にお茶っこのひとときが過ごせるところにもなりました。

でも、この2年はじっとガマン。



花巻スイッチをONにできる日が1日も早く来ますように。

*「精神歌」「星めぐりの歌」の時報は、花巻市役所庁舎・花巻温泉郷付近で流れています。

ママさんライターの花巻語り部屋

岡田さん
0歳と4歳の2児のママ（Uターン）

佐藤さん
小学生の子どもがいる先輩ママ（Iターン）

佐藤さん（以下／佐）　今日はよろしくお願いします。

岡田さん（以下／岡）　よろしくお願いします。ぜひ色々と教えてください（笑）。

佐　まず、散歩していると必ずと言っていいほど声をかけられますね。「これ持ってって～！」とお土産を持たせられたり。

岡　いや～花巻のいいところですね～。

佐　それと、地域の子育て広場にもお世話になりました。育児について相談できたり、みんなでお昼を食べたり、地域ぐるみで子育てしている感じなんです。

岡　まさに「子どもは地域の宝」ですね。あ、でもうちの地域にはそういうの（子育て広場とかサロンとか）が無いのでうらやましいです～（笑）。

佐　岡田さん、「まなびキャンパスカード」はご存知ですか？

岡　うちの子はまだなんですけど、入館料とかが割引になるんでしたっけ？

佐　そうそう、小学生になるともらえるんですよ～。夏休み中、花巻市民プールなどが入場無料みたいなので、行ってみようと思います。

岡　うちは子どもと図書館によく行くので「読書おもいで帳」がお気に入りです。借りた本が記帳できるんです～。

佐　そういうのもあるんですね～！

岡　そして、まなびキャンパスカードも読書おもいで帳も、フラワーロールちゃんがデザインされてて可愛いんですよね（笑）。そうだ、「花巻・子どもと一緒におでかけMAP」はご覧になったことありますか？

佐　もちろん！　特に市外から引っ越してきたパパママさんにはありがたいですよね。

岡　ちょうど0歳の子どもがいるので、授乳室やおむつ替えスペースなど、改めて参考にしています。ちなみに、わたしのイチオシは「花巻おもちゃ美術館」！

佐　私も色々おすすめあるんですよ～。

岡　わー！　気になります！　あとで詳しく教えてください。

佐藤さん執筆記事

岡田さん執筆記事

子育て支援

まなび
キャンパスカード

読書おもいで帳

工芸の作り手と読み手を結ぶ

何十年も工芸品を作り続ける作り手
私が生きた年数ではとうてい及ばない時間

最大限作り手の気持ちを汲み取り
培った技術、想いをストレートに伝える

読み手はもちろん
作り手に喜んでもらえる記事を書くのが
何よりも楽しいし、嬉しい

記事を読んだ人が少しでも興味を持ってくれること
そして、足を運び、工芸品を迎え入れてくれることを願って

今野さんの
関連記事

市民ライター花巻のおすすめ

新鮮野菜の農家カフェ
「ファームプラス」

昭和の店が
立ち並んでる錯覚に！
「昭和の学校」

桜町の
宮沢賢治自耕の地
「下ノ畑」

「産直案山子」の
焼きプリン大福

「マルカンビル大食堂」の
箸で食べる10段
マルカンソフトクリーム

市内を一望できる
「胡四王神社」

石鳥谷八幡の
「田んぼアート」

「大沢温泉」の
開放感あふれる露天風呂
やはぎの蕎麦は最高！

移住者が宮沢賢治の魅力
を語りあえる場を開放。
大迫町の「賢治文庫」

夏休みのような雰囲気が
味わえる「花巻南温泉峡」

新花巻駅のそばの
「きゃびん」のワサビ冷麺

道の駅「石鳥谷」の
ごまソフトクリーム

土沢商店街「松葉商店」
しょうゆたこ焼き
もちもち焼きそば

歴史が詰まる
「花巻図書館」から
「ぎんどろ公園」

こんなに花巻の自慢が
できる「まきまき花巻
市民ライター」

編集後記

花巻市の魅力を改めて見つめてみることは、簡単なようで中々できないことだと思います。今はSNSで何でも気軽に発信できる時代です。そんな中まきまき花巻は、取材相手にアポを取って、取材をし、撮影をし、記事を執筆し、確認作業をします。今時そんな面倒くさいことを？と思う方もいるかもしれません。しかし、丁寧に記事を作り上げていく過程は、地域の方との信頼関係を育み、人に伝えるために一生懸命考えて作り上げるという達成感と喜びがあります。記事を誰のために書くかはあえて決めずにライターに委ねていますが、そうすることでより幅広い読者に届けることができます。だって、花巻市内のライターもいれば、首都圏や関西圏のライターもいるんですから。まきまき花巻のライターは、自由で力強くとっても柔軟です。

花巻市地域おこし協力隊として、3年間まきまき花巻の編集や執筆に携わってきましたが、令和3年9月で任期満了を迎えます。いままでお世話になってきた皆様、本当にありがとうございました。この場を借りて御礼申し上げます。

これからもライターひとりひとりの個性あふれる記事を、沢山の方に愛読していただけることを願っています。

まきまき花巻編集部・地域おこし協力隊　塩野 夕子

花巻市の情報発信サイト
ｍａｋｉｍａｋｉ　ｈａｎａｍａｋｉ
まきまき花巻

2021年9月

発行　花巻市地域振興部　定住推進課
　　岩手県花巻市花城町9番30号
　　Tel. 0198-41-3516
文 / 写真 / イラスト　塩野夕子〔地域おこし協力隊〕
監修・印刷　川嶋印刷株式会社